

株式会社ジーエヌアイグループは、東京証券取引所グロース市場に上場し、創薬、医薬品および生体材料の開発、臨床試験、製造、販売を米国および中国において行うグローバルヘルスケア企業です。詳細は以下の当社ホームページをご覧ください。<https://www.gnipharma.com/>

本資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうる重要な要因には、当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、世界情勢などが含まれます。

(1) 2022年12月期連結業績予想と実績との差異

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者 に帰属する 当期利益	基本的1株 当たり 当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	18,023	2,050	1,214	35	1,217	25.65
今回実績値 (B)	17,418	1,377	767	<u>△868</u>	<u>388</u>	<u>8.19</u>
増減額 (B-A)	<u>△605</u>	<u>△673</u>	<u>△447</u>	<u>△903</u>	<u>△829</u>	-
増減率 (%)	<u>△3.4%</u>	<u>△32.8%</u>	<u>△36.8%</u>	-	<u>△68.1%</u>	-
(ご参考) 前期実績 (2021年12月期)	12,690	1,624	1,107	55	1,066	22.72

(2) 差異の理由

売上収益は前回予想より3%下回りました。これは、中国で2022年11月および12月にゼロコロナポリシーが解除された後、新型コロナウイルスが急速に蔓延したため、北京コンチネント薬業有限公司（以下「北京コンチネント」）の売り上げが年末にかけて伸び悩んだためです。

営業利益および税引前利益が予想より減少した理由は、主に以下の要因によります。

- ✓ 香港証券取引所への上場を中断し、米国のCatalyst Biosciences, Inc. (以下「CBIO」) との取引を優先することを決定する前に発生した20.4百万人民元(3億9,530万円)の一過性の上場準備費用の計上(北京コンチネントが資産化していた上場準備費用[17.0百万人民元]の費用化含む)
- ✓ Cullgen, Inc. (以下「Cullgen」) における、標的タンパク質分解誘導技術プラットフォームを利用した、がん及び炎症性疾患に向けた将来の新薬パイプラインを構築するための研究開発費の増加
- ✓ 中国での新型コロナウイルスパンデミック中の頻繁なロックダウンによる販売費の上昇
- ✓ グループ全体の戦略立案と財務・経営管理を行う東京本社における販売費及び一般管理費用の増加(主に、M&A活動のためのプロフェッショナル・サービス費用の発生、経営機能の強化のための管理職クラス人財の追加採用による人件費の増加による)
- ✓ 非上場企業のCellCarta(旧Reveal)の当社グループ持ち分における240万ドル(51.3%の減少)の評価損
- ✓ 上場企業のSocietal(旧Recro Pharma)の当社グループ持ち分における25万ドル(12.9%の減少)の評価損
- ✓ Cullgenの過去の資金調達に関連する640万ドルの現金支出を伴わない利息費用

当期利益および親会社の所有者に帰属する当期利益が予想より減少した理由は、上記の事情に加え、連結レベルでの税負担であります。当社グループの法人所得税費用は1,636,139千円となり、税引前利益767,887千円に比して高額となりました。その理由は、北京コンチネント、Berkeley Advanced Biomaterials LLC およびその他の収益性の高い子会社で発生した所得がそれぞれ課税される一方、

Cullgen や当社グループ東京本社のようなコストセンターで発生した費用については、繰延税金資産の将来の回収可能性が見込めないために繰延税金資産を認識できないことによります。